

ヒメボタルは こんなホタルです



ヒメボタルメス
後翅が退化している

ヒメボタルのオス、メスともに腹部に黄白色の発光器を持っています。オスは2節、メスは1節が発光し、小さいながら黄金色のフラッシュ光の点滅が特徴となっています。最初はバラバラであった発光も、発光するオスの数が増えるにつれて近くに飛翔するオス同士の明滅が揃うようになります。

日本では46種類のホタルが確認されています。ホタルといえば、最もよく知られているのが、ゲンジボタルとヘイケボタルです。ヘイケボタルは水田に生息しますし、ゲンジボタルは川や水路に生息します。ヒメボタルも古くから各地に生息していたと思われませんが、夜間に人が近づかないスギ・ヒノキ林などに発生することからあまり意識されていません。生息分布が知られていないことや、生活史が理解されていないことなどの種々のマイナス条件が重なり、知られない間に保護できず消滅した所も多いと推測できます。



幼虫が食べる
キセル貝の一種

ヒメボタルは、幼虫期も陸上で生活する陸生のホタルです。西日本の低地に広く分布しているのは、小型のヒメボタルが多いようです。小型ヒメボタルの体長は、オスで6ミリ前後・メスで5ミリ前後です。オスの複眼は大きく触覚も長くなっています。他のホタルと違い、メスはオスより小型で体の幅が広く、後ろばねが退化して飛べないのが特徴です。頭は黒色で、前胸部には赤斑があり、黒褐色の半円形があります。

日中は、ゲンジボタルやヘイケボタルのように茂みの草陰や木の葉の裏で休むのではなく、地上に積もった落ち葉の中や土の上で休んでいます。ヒメボタルのメスは、地上や草の茎、枝などに捕まりながら発光し、それに惹かれてやってきたオスと交尾します。メスは腹部に無精卵をおよそ30~90個持っており、早ければ交尾の翌日には産卵を開始します。土の上に産み付けられた卵は、雨が降れば土の間へと流されます。大きさ0.7mmほどの卵は約1ヶ月で孵化し、幼虫は陸生で小型のカタツムリの仲間である、ベッコウマイマイやオカチョウジガイなどを食べながら大きくなります。(一匹のヒメボタルが成虫になるまでに、およそ50個のオカチョウジガイを食べるといふ報告があります。)1年ないしは2年で成虫になりますが、終令幼虫は4月下旬頃(地域によってかなりの違いがある)土の中に潜り、「土繭」をつくります。ただし、これも生息地によっては、土繭を作らずに、落ち葉の下の土の表面などで、そのまま蛹になるものもいるようです。成虫の寿命はオス、メスともに7日くらいです。

ヒメボタルのメスは、オスに比べてずんぐりむっくりしており、他のホタルと違ってメスの方がオスより概ね小さいのが特徴です。(雌雄がほぼ同じ大きさの場合もあります。)オスは規則的に約0.5秒に1回のフラッシュ光を放ちます。メスは間隔をおいて瞬く誘引信号を放ちます。飛翔行動では、オスは地上から1~2mの高さをフワフワと弱々しく林の中を移動します。ライトなどが向けられると潮が引くように林の奥に移動してしまいます。オスの発光は、あたりが暗くなる午後7時30分頃から始まり、午後8時~午後9時の1時間が最も多く見られるようです。明るさの関係で、曇りや雨の日の発光は晴れの日より少し早くなるようです。また風の強い日の飛翔行動は、非常に少なくほとんど見られません。11時または12時頃から発光活動を始める深夜型のヒメボタルもいます。

